

# 西諸県地域の普及活動

令和5年8月  
西諸県農林振興局  
(西諸県農業改良普及センター)

## I 管内農業・農村の主な動き

### 1) 8月期子牛郡品評会が開催

16日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和5年8月期子牛郡品評会が開催されました。

品評会には、雌子牛31頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、壹等賞に14頭、貳等賞に10頭が選ばれました。なお、優等賞首席は高原町のUY氏出品の「ふたば202」号(宗守富士ー耕富士ー美徳国)、2席は高原町のOH氏出品の「こすもす」号(宗守富士ー勝平正ー糸北国)、3席は高原町のOK氏出品の「ふくあかり」号(福晴茂ー美徳国ー勝平正)が受賞されました。

受賞牛は、体積豊かで腿の充実、皮膚の薄さやゆとりが評価されるとの講評でした。



【優等賞首席 ふたば202号】

### 2) 第64回宮崎県畜産共進会西諸代表牛決定検査が開催

7日に小林地域家畜市場(西諸県畜連)において、第64回宮崎県畜産共進会西諸代表牛決定検査が開催されました。

審査は第1類から第3類に分けて行われ、厳正な審査を経た後、西諸県の代表牛として第1類(12ヶ月齢以上17ヶ月齢未満)が5頭、第2類(17ヶ月齢以上22ヶ月齢未満)が5頭、第3類(同一種雄牛産子3頭セット群)は二刀流の産子3頭が選出されました。

選出された牛は、10月に小林地域家畜市場で開催される第64回宮崎県畜産共進会に出品されます。



【審査の様子】

### 3) JAこばやしメロン部会定期総会について

21日、令和5年度第9回JAこばやしメロン部会定期総会が、ゆ〜ぱる野尻で開催されました。対面での開催は4年ぶりで、夜には意見交換会も行われました。

令和4年産のメロンは、「1〜3月の単価が良かったものの、5月に入り、コロナ5類移行の影響で、インターネット販売が伸び悩んで、荷の動きが悪い」と、経済連から報告がありました。

全国的に産地が減ってきていますが、県内唯一のメロンブランドを維持するために、関係機関と連携して、技術支援等を行っていきます。

## 4) 水稲栽培講習会の開催

31日、えびの市で、第2回目の水稲栽培講習会を開催し、8ヶ所で延べ32名の参加がありました。

普及センターから、水稲の生育状況や今後の水管理等について説明し、参加者からもウンカに関することや今後の台風の影響等について、積極的に質問がありました。



【講習会の様子】

## II 主な普及指導活動等の取組

### 1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

#### 1) 就農相談会を実施

18日、普及センターにおいて、えびの市で父親の露地野菜経営を承継して就農する予定の方と、えびの市でたまねぎと水稲の有機栽培で就農する予定の方の就農相談を行いました。どちらもこれまで複数回の相談を経て収支計画を作成し、今回その計画の最終確認を実施しました。認定新規就農者の認定要件は達成できる計画となることを関係機関や本人と確認し、令和5年9月に認定予定となっています。

今後も、就農に向けた支援を実施していきます。

※就農相談対応(面談)等 2名2回

(内訳：えびの市：露地野菜1名、たまねぎ・水稲(有機栽培)1名)

#### 2) 農業次世代人材投資資金活用者の就農状況等の確認

22日、高原町役場において、施設きゅうり経営を行っている事業活用者の就農状況確認を面談により実施しました。前年度の生産量や売上高などの経営実績や本年度の経営状況を確認し、経営改善に向けた取組について助言しました。

30日、えびの市いちご団地において、高設いちご経営を行っている3名の事業活用者の就農状況確認を面談により実施しました。前年度の生産量や売上高などの経営実績や本年度の経営状況を確認したところ、収量が落ちている原因の1つに病害虫の蔓延や人手不足があるので、防除の徹底や人手確保に向けた助言を行いました。

(内訳：えびの市：いちご3名、高原町：施設きゅうり1名)

### 3) 第1回アグリ★ステップアップセミナーを開催

24日、農作業安全に関する内容について、オンラインで研修を行いました。

農作業安全対策は、農業経営の直接の儲けに繋がらないため、後回しになりがちですが、重要な経営改善対策であると説明がありました。また、農作業死亡事故は、高齢者の確率が高い一方で、負傷事故は将来の担い手である若年層の方が割合が多いことが分かり、地域農業を守るためにも農作業事故対策はしっかりと行う必要があることを学びました。

来月は、ライフプランをテーマにした第2回目のアグリ★ステップアップセミナーを開催予定です。



【ステップアップセミナーの様子】

### 4) 第2回アグリ★レベルアップセミナーを開催

21日、「従業員が働きやすい環境づくり」等の労務管理に関するテーマを中心に、外部から講師を招いて研修を行いました。

講義では、問題発生時に備えて就業規則を毎年見直すことの重要性や、採用面接時のポイント等について説明がありました。また、講師は従業員を気遣う労働環境を整える等、優良な従業員が会社に定着するために経営改善の工夫をされていました。

参加者からは、「就業規則の大切さが良く分かった」、「従業員を雇用しながらも、規模拡大等で経営を安定・発展させていくために、適度に借入を利用したい」等の感想がありました。

普及センターでは、来年度も引き続き、担い手の経営管理技術の向上を目指した研修会を計画します。



【貴重な体験談を惜しみなく語る講師】

## (未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

### 1) 令和5年度 第1回 次世代型水田農業推進会議を開催

3日、地域の維持可能な水田営農の実現に向け、関係機関で情報を共有し、地域の課題を検討していくことを目的とした次世代型水田農業推進会議を開催しました。

会議では、水田担当者で構成したワーキンググループの各地区の活動状況や振興品目の検討状況及び課題、えびの市の耕畜連携の動きなど情報共有をおこないました。

また、今後の交流会等の活動計画についても説明をおこないました。今年度は活動を通して関係機関と連携し、地域の現状把握と課題の整理をおこない、今後の地域支援に繋がっていきます。

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

## 1) 加工用ほうれんそうの栽培講習会

18日にJAえびの市本店で、31日にJAこばやし野尻支所で加工用ほうれんそうの栽培講習会が行われました。

普及センターからは、栽培暦に基づいた時期別の管理のポイントや、前年度に大きな被害をもたらした黄化症状の原因と対策、べと病対策について説明を行いました。

また、実需者である冷凍加工会社から、異物混入対策についての説明がありました。

9月下旬から、は種時期を迎えます。黄化症やべと病の対策をとることで、今作でも良質なほうれんそうが安定生産できるよう支援していきます。



【管理のポイントなどを説明】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

## 1) データ活用研修 (みやざき施設園芸産地構築事)

県では、施設園芸の生産量向上のため、環境データの効果的な活用方法の検討をおこなっています。(通称、Dプロ)

その取組に、西諸県管内からは、8名の生産者(ピーマン5名、きゅうり3名)とJAこばやしの営農指導員に参加しています。

25日、今回の取組に参加する営農指導員と普及指導員を対象とした研修会が開催され、管内の生産量を向上させるために何をすべきか、様々な意見交換を行いました。

今後も引き続き、関係機関や生産者との連携を図り、一緒になって将来の姿を検討し、実行していきたいと思えます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

## 1) なし(幸水)のジョイント・流線型仕立て 果実調査

9日、小林市なし農家の園地にて実施しているジョイント・流線型仕立て栽培での果実調査(幸水)を行いました。ジョイント栽培は省力化と早期成園化が図られますが、当地域で連年の安定生産ができるかが課題となっています。

今後は、過去10年間の収量や果実品質データを取りまとめ、関係機関と検討を行います。



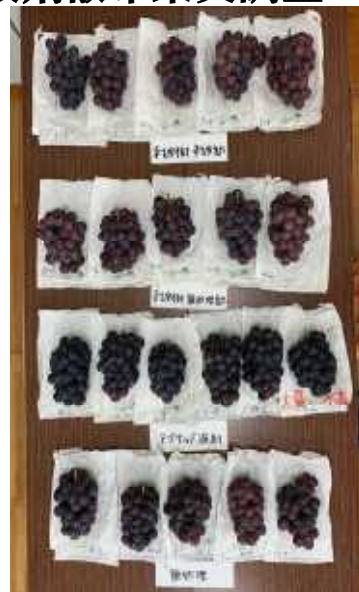
【果実調査の様子】

## 2) ぶどう(ピオーネ)の環状剥皮処理、アブシシン酸液剤散布果実調査

22日、小林市ぶどう農家のトンネル栽培施設において環状剥皮を行ったピオーネと、着色剤を散布したピオーネの果実調査を行いました。

環状剥皮は4年目の処理となるため、樹勢低下により着色がやや不良となりました。今年から販売されている着色剤であるアブシシン酸液剤の散布については、大きく着色効果が高いものの、袋掛け後の散布となるため労力がかかりました。

今回の果実調査のデータと今後の樹勢の様子、農家からの意見などを取りまとめ後、関係機関と検討を行います。



【ピオーネ果実調査】

## 3) ぶどう(シャインマスカット)の傘・青袋 果実調査

28日、小林市ぶどう農家の無加温ハウスにおいて、傘かけや色袋を使用したシャインマスカットの果実調査を行いました。ここ数年、ぶどうの日焼けが問題となっているため、傘かけや色袋の使用により被害を軽減することが目的ですが、傘を外すタイミング等で糖度が低下したり、果皮色が黄色くなることがありました。

今回の果実調査のデータと労働時間、農家からの意見などを取りまとめ後、関係機関と検討を行います。



【シャインマスカット果実調査】

## 4) 小林市果樹農業振興推進対策協議会 梨ぶどう品評会

29日、普及センターで、梨ぶどう品評会が行われました。梨1部門、ぶどう2部門に生産者10人が出品し、懸命に育てた果実の出来映えを競いました。果実は県や市職員が務める審査員が色や粒の大きさ、味などを評価しました。

新型コロナにより4年ぶりの開催となりましたが、生産者のモチベーションアップにつながったようです。

今後も関係機関と連携し、梨ぶどう生産振興に取り組んでいきます。



【ピオーネの審査の様子】

## (西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

### 1) ラナンキュラス栽培講習会の開催

23日、普及センターで開催された講習会に、生産者7名、関係機関5名が参加しました。普及センターからは、今後の管理として、土づくりから定植までの留意事項について説明しました。また、農業試験場花き部の成果情報を提供しました。

ラナンキュラス栽培では、これからは場準備と球根冷蔵期に入っていきます。安定した収量と品質を目指して、これからも支援していきます。



【ラナンキュラス栽培講習会】

### 2) 高原町花卉部会の定期巡回及び定例会

24日、高原町管内において、生産者3名、関係機関3名が参加しました。キク生産者3戸のハウスについて9月彼岸出荷型を中心に巡回を行い、生育状況と今後の管理について確認を行いました。先日の台風6号の対策として、ビニル被覆を除去していたほ場では、キクの曲がりが発生していましたが、大きな被害はみられませんでした。

定例会では、JAから情勢報告が行われ、8月お盆出荷の状況について説明されました。普及センターからは、防除で使用するノズルの使用方法や冬に向けた暖房機等の準備、低温開花性「N-11」について説明を行い、日々の管理を行いながらも体調を整えて作業するよう伝えました。

関係機関と典型し、部会の活動を中心に支援していきます。



【高原町花卉部会定例会】

## 2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

### 1) サツマイモ基腐病発生状況調査の実施

22日に、JA、市町担当者と管内定点のサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。8月上旬に襲来した台風6号による影響が懸念されましたが、今回の定点調査ではサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

また、参加者(JA、市町担当者)から聞き取りでも、管内全域での基腐病の発生は確認されませんでした。

発生状況調査は、収穫が終了していないほ場で、来月も同様に実施する予定です。



【サツマイモ基腐病の調査】

## 2) 畑かん散水器具実演会の開催

25日に、畑かん散水器具の実演会を、小林市役所、西諸土地改良区、散水器具メーカー3社、西諸県農林振興局の協力のもと、小林市東方（東部第1地区）で開催しました。

実演会では、関係機関から畑かん事業の概要や散水器具導入等に関する説明が行われ、その後、散水器具メーカーによる散水器具の実演が行われました。

参加者された生産者の反応は良好で、実演会終了後に数名の方は散水器具購入の申し込みをされていました。



【畑かん散水器具の実演】

## 3) 西諸県地区野菜技術員会について

30日、小林市役所において、西諸県地区野菜技術員会を開催し、地域の取り組みや生育の概況について情報を共有しました。

生育概況では、台風や高温により草勢の低下が見られるなどの報告があまりました。また、普及センターから、重要病害虫トマトキバガの情報や、さといもの県産品点検の結果などの情報提供をし、意見交換も活発に行われました。

今後も関係機関と連携し、野菜振興に向けた取り組みを展開していきます。

## 4) ラナンキュラス冷蔵週齢及び定植日の検討における営振協展示ほの設置開始

JAこばやし管内のラナンキュラス生産ほ場にて、ラナンキュラスの冷蔵週齢と定植日の検討のための試験設置を行いました。輸入球根であるPonPonシリーズの「イグルー」を用いて、試験場花き部の成果である、球根冷蔵週齢の結果を参考に、5週冷蔵と6週冷蔵の検討を行います。また、定植時期の高温の影響で初期生育が不良となる事例もあるため、定植日を2日設けて比較試験を行います。

生産者には、多くの協力をいただきながら、今後調査を行い、冷蔵の長さ及び定植時期の温度と生育の関係について検討していきます。